ニュースレター
2012年9月
第7号

だんだん

隠岐広域連合立　隠岐島前病院
http://fish.miracle.ne.jp/dozen/

＊＊＊今回の内容＊＊＊

１．はじめに
２．新たな取り組み
３．季節を感じて…
４．３年ぶりの海士へ
５．ジャパンハートについて
６．おわりに

こちらでは「まき」と呼ばれるお餅サンキラーという葉っぱで包んだ餡子餅です

隣りの島・海士での「きんにゃもにゃ祭り」の集合写真

１．はじめに

師長　松浦幸子

ニュースレターも第７号となりました。６号の発行から、あっという間に１年が経とうとしていて時間の早さに戸惑いを感じます。そんな中ですが久々に隠岐島前病院のお知らせができることに大変うれしい思いです。

一番にお知らせしたい事は若手ナースが１名Ｕターンしてきたことと、医師が１名増員していることです。新たなメンバーが加わり、最近の隠岐島前病院は日本一の地域医療を実践しようと取り組んでいます。安全、安心な医療の提供はもちろんですが、どんなに業務に追われていても少しでも患者さんの思いに耳を傾け、患者さんに寄り添える医療を、スタッフ一人一人が専門職として、その力を発揮しながら隠岐島前病院チームとしての役割を果たすことと考えています。関係者の今までの努力もあり隠岐島前病院は行政、福祉、隠岐消防救急業務との連携が大変素晴らしいと評価もいただいています。この現状を守りながら、さらに患者様、住民の皆様の信頼にこたえるよう歩んでいきたいと思います。

今年も大勢の学生に未来の素敵な医療者になっていただけるよう地域医療体験実習を受け入れています。住民の皆様にはご迷惑となる時もあるかと思います。この場をお借りしあらためてご協力に感謝申し上げます。

看護師不足、スタッフ不足という課題はまだまだありますが、まずは今居るメンバー一人一人を大切に魅力的な職場づくりと考えています。日本一の地域医療を目指し、患者様や住民の皆様からのご意見を心から歓迎しています。どうか気兼ねなく声掛け頂きますようよろしくお願い申し上げます。

残暑厳しい毎日ですが、皆様どうかご自愛のもと、お過ごしくださいますようお祈り申し上げます。

2．新たな取り組み

看護師　為保麻美

地域の方も参加しての勉強会

隠岐島前病院では、新たな取り組みとして今年度から始めたことがいくつかあります。その中のひとつが、研修医による「ミニ勉強会」の開催です。

隠岐島前病院には医学生や看護学生が体験実習に来られます。
そして、島根県内の病院からは研修医が１カ月ごとに１名来られます。しかし、今年度は月に２名ずつ研修医が来られる予定。

離島・へき地という環境である「隠岐島前病院」に来て、本土の病院では学べないたくさんのことを学んで、今後に役立ててほしいと考えている私たち。今までは「育てる」ことを中心に考えていましたが、学生や研修医の皆さんから学ぶことも多いことに改めて気がつき、この学べるチャンスを活かしたいと考えるようになりました。

そこで、今年度から毎月１回「ミニ勉強会」を開催することにしました。専門科別に分かれているわけではない隠岐島前病院なので、さまざまな患者さんの看護を行っていく必要があります。研修医のみなさんは、それぞれ得意分野もあり勉強熱心です。私たち看護師が実践に活かせる知識をもっと増やしてよりよい医療を提供できるようにと研修医のみなさんは忙しい時間の合間に協力してくださっています。勉強会の内容は「人工呼吸器」、「脳卒中」、「マムシに噛まれた場合の対応」、「ハチに刺された時の対応」などなど様々です。時には地域の方が勉強会に参加することもあります。

継続は力なり…より良い医療の提供に向け、今年も頑張っています。

3．季節を感じて…

短冊作成中

記事とは関係ありませんが・・・
お盆のしゃーら船（精霊船）

療養型のある隠岐島前病院では、長期入院されている患者さんもいます。入院していても、季節を感じながら過ごすことは　言うまでもなく大切なことです。というわけで、季節ごとに「〇〇会」が開催されます。７月には七夕会、９月はお月見会、12 月はクリスマス会が行われます。

先日の七夕会では、みなさん短冊にそれぞれのお願いごとを記入して♪笹に飾って、七夕会のスタートです。もちろん病院スタッフもそれぞれ願い事を記入しました。

デザートには厨房のみなさんお手製のフルーツたっぷりの牛乳寒天が登場しました♪

今年の七夕は雨も降らず☆も見えましたね。みなさんはどんな願い事をしましたか？

そして…夏の行事と言えば　夏祭りや花火大会ですよね。実は島前病院は隣町の花火大会の穴場スポットなのです。今年も例年通り、病室・食堂・廊下いろんな場所から車いすやベッドと様々な形にはなりますが、とてもきれいな花火をみることができました。

自然の風や光を感じてほしいものですが、入院中は限界もあります。そのような中でも、行事を通して季節を感じながら、入院生活を送ってほしいとスタッフ一同、季節ごとの行事に取り組んでいます。

4．３年ぶりの海士へ

看護師　上谷千代美

院内の敷地で模擬散歩

福祉タクシーで自宅へ

ご家族と一緒に

5月 23 日、待望の海士日帰り外出計画は何事もなく無事終える事が出来ました。今年度は長期療養患者や自宅退院困難な患者様に対し積極的なドライブや散歩、自宅への外出を計画していこうという病棟スタッフの目標のもと、その一番バッターとしてＴさんの３年ぶりの自宅への外出がかないました。

パーキンソン病のＴさんは、自分で呼吸や排痰ができません。入院して２度自宅へ戻りましたがどちらもまだ呼吸器装着前のことでした。病院には携帯用のコンパクトな真新しい呼吸器が装備されています。（まだ誰も使用したことがありません）様々な付属品を最小限に外すと 20 センチ四方で重さ数キロの呼吸器です。これを使わない手はありません。

そこで外出計画その①スタッフの確保→休みの看護師に声掛けしてボランティアを募る。②病棟カンファレンスに上げて安全に外出するための対策を考える③付き添い研修医による呼吸器の勉強会の実施④外出日までに模擬散歩を繰り返す、等々。

さて当日親戚の方やご主人の迎えもあり、晴天に恵まれた当日暑さ対策をしながら病室で迎えの福祉タクシーを待っていました。でも時間が過ぎても一向に現れません。電話してみると１本あとの５分しか停泊時間のないフェリーで向かったとの答え。慌ててリクライニングの車椅子で玄関先まで移動し、折り返しすぐに出発できるよう準備。看護師１人は先に港へ出向き、必ず乗るので少し待って欲しいとフェリーの方にお願いしました。出鼻をくじかれた感がありましたが、なんとか数分遅れで別府港を出港。ホッとしたとともに汗びっしょり。でも車の中では看護師・蛭子さんによるしげさ節などの歌も飛び出し旅情緒は最高でした。

あっという間に海士に到着、懐かしい西地区へ向かいます。自宅へ到着すると息子さんの出迎えあり、今回は玄関が狭いため縁側からストレッチャーごと居間へ入りました。Ｔさんは目をキョロキョロさせながらなんともいえない表情をみせてくれました。ご主人自慢の勲章をＴさんの胸に載せて記念撮影！１時間足らずの在宅でしたが頭を動かせないＴさんに担架ごと向きを変えて自宅周囲を見て頂きました。帰りはタクシーの運転手さんの計らいで近くのＴさんの実家も回っていただきました。ありがとうございました。こうして何事もなく？無事に定刻に帰院しました。

反省点はあれこれありますが江田先生の“大丈夫！何かあれば僕がアンビューを押し続けますから！”の一言が強い力となりました。ご協力して下さった皆さんありがとうございました。また来年、今度は桜の咲く時期に外出したいと考えています。

5．ジャパンハートについて

看護師：白木　綾子

ジャパンハートは、**「医療の届かない所に医療を届ける」**という理念のもとミャンマー、カンボジア事業、国内では僻地・離島への看護師派遣、東北での支援活動を行っています。
今回は私が一年間関わらせていただいたミャンマー事業について紹介したいと思います。

① 養育施設「Dream　Train　ドリームトレイン」

エイズで親を亡くした子供達を売春・人身売買から守る為に引き取り、生活のサポートと将来の自立を目指しています。子ども達は未来を作り上げていく国の宝です。貧しい子ども達を守り育てていくことが、ミャンマーの発展に繋がっていくと考え活動しています。

ミャンマーは少数民族が居住する国で言語はミャンマー語が主です。民族によって言葉も様々なので遠くからやって来る子供達はミャンマー語を話せない子もいます。子供同士で教え合い支え合っている姿がとても印象的で、環境に負けない子供達の力強さと、キラキラした笑顔にはとても心を打たれます。

② 視覚障害者への自立支援活動

ミャンマーでの視覚障害者の現状は厳しく、盲学校があってもその存在を知らず一生を村で隠れるように過ごす方が少なくないそうです。盲学校の数もきわめて少なく、マッサージや竹細工、占い師など経済的自立にはつながらない職業に就くのが現状です。

ジャパンハートは、全国の盲学校より学生を選出して、医療マッサージ師を育てるトレーニングセンターを作りました。学校はヤンゴンにあり、ここで学んだ学生は卒業後、自分の盲学校へ戻り教員として働きます。彼らのほとんどが２０歳代で向上心がとてもあり、日本語も上手です。私は昨年の１０月１５日「国際白杖の日」というイベントに参加する機会がありました。全国の視覚障害者がヤンゴンに集まり、一般の方に視覚障害者への理解を深める為に毎年行われているそうです。早朝から視覚障害者と関係者がペアで一緒にウォーキングをします。私も一緒にペアになり、日本語と英語、ミャンマー語を交えて会話をしながらヤンゴン市内を歩きました。その途中には、たくさんの一般の方からお菓子や食べ物などの差し入れがあり、二人で両手に大きな袋を持ちゴールしました。こういったイベントがあることで都市部では視覚障害者の方への理解も広がっている事を感じました。

③ サイクロン被災地の子供の教育支援活動

2008 年、ミャンマーにサイクロン・ナルギスが上陸しました。親を亡くした孤児の生活面、教育面への支援を行っています。

④ ザガイン・ワッチェ慈善病院での医療活動

病院には日本人看護師と医師、ミャンマー人看護師、看護師見ならいのスタッフが働いています。

ミャンマー人スタッフは、１０歳代から２０歳代と若い女の子が家族の元を離れて全国から集まります。まず看護師見習いとして手術室か病棟で働き、一人ずつ順番に３か月間学校へ通い看護師となります。ミャンマーでは３か月の看護学校では、いくら優秀でも看護助手としてでしか働けません。今後大学へ行きたいという子も多いのですが、現在は、大学へ行ける者は２５歳までという制限があってなかなか厳しい現状です。まだまだ親元にいたい、遊びたい時期の女の子でも病院では日本人と共に患者さんの為に頑張っています。

患者さんは大人から子供までが対象です。遠い地域から３、４日かけて日本人に病気を治してほしいとやってくる患者さんが沢山います。お金がなくて家や家畜を売ってまで遠くからやって来る患者さん、貧しさの中にも明るさと優しさを見る事ができ、本当の幸せとは何なのかすべての出会いを通して考えさせられる事ばかりでした。

環境に負けず力強く生き抜くミャンマー人の姿は、ボランティアで役に立ちたいという思いで行った私に自分自身の人間として、看護師として沢山のことを学ぶ機会を与えてくれました。

５月からは、隠岐島前病院へ派遣していただきました。島暮らしは初めてで、不安と緊張で一杯でしたが、自然がとてもきれいなことに感動し、島の方や職場の方の温かさに触れ、抱えていた不安も緊張もすぐに和らぎました。そして、私がとても感動している事は、島前病院が地域ととても密着している所でした。日々、患者さんがその人らしく生きる為には何がいいのかを多職種スタッフ同士が話し合っていて、患者さんに対する熱い思いを見ることができます。このような医療に対して熱いスタッフが集まっている環境で、たくさんの事を学び吸収し、自分に出来ることはどんどんチャレンジしていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

７．おわりに

先日、病棟に新しい車椅子が届きました。「みんなで集めて福祉につなげる会」からの寄贈です。８年間かけて集めたアルミ缶が１台の車椅子になったそうです。

また、外来には病院ボランティアさんが作ってくれた杖立てをいただいています。これは手作りだそうです。

どちらも大切に使わせていただきます。

色んな人から支えられている病院で働いていることを実感する日々です。ありがとうございます。

そんな当院では平成 25 年度の職員を募集しています。

職種は看護師・薬剤師となります。詳細は病院ホームページに掲載しています。お問い合わせは電話でも受け付けています。

一緒に働いてみませんか？お問い合わせ、お待ちしています。

今回も最後まで読んでいただきありがとうございました。ご意見・ご感想などありましたら右記まで連絡いただけると幸いです。

隠岐広域連合立　隠岐島前病院
〒６４８－０３０３
島根県隠岐郡西ノ島大字美田 2071-1

TEL　08514-7-8211

FAX　08514-7-8702

MAIL（看護部）
dz-kaigo@sx.miracle.ne.jp